

第1回 茨木市総合交通戦略協議会 会議録

1 日 時

平成25年7月24日（水）午後3時～5時

2 場 所

茨木市役所 南館10階大会議室

3 出 席 者

別紙出席者名簿のとおり

4 欠 席 者

松江委員

5 開催形態

公開（傍聴者7名） ※ 会議の公開が決定した後に、傍聴者入室

6 次第及び議事の内容（概要）

（1）開会（柴崎副市長挨拶）

- ・今年度は市長の附属機関となり、協議会の名称は変更されたが、これまでと同様に検討を進めていきたい。施策の検討にあたり、部会を設置し集中的にご議論をいただきたく、委員のみなさまには今まで以上の負担を強いることになるが、本市の将来交通のあり方を決める重要な1年になると考えているため、忌憚のない意見を頂きたい。

（2）委員紹介

〔事務局（市）より出席者を紹介〕

（3）会長及び副会長の選出について

〔委員の互選により、塚口委員が会長に、猪井委員が副会長に決定〕

（4）会議の公開及び会議録の公開について

〔会議の公開について、以下のとおり決定〕

- ・会議は原則、公開とする。ただし、非公開とすべき案件が発生したときは、会議の非公開を決定することとする。会議資料については傍聴者へ閲覧、配布する。

〔会議録の公開について、以下のとおり決定〕

- ・会議録については要約したものを各委員に確認した後、公開する。会議録中の発言者の表示は「委員」「事務局」等とする。また、会議資料についても公開する。

(5) 議事 1 : 短・中期的な計画策定に向けた検討について

議事 2 : 部会の設置について

〔事務局より議事 1 及び議事 2 の検討内容について説明〕

(会長)

- ・資料 6 の 3 ページに長期的な都市交通計画（案）の実施策（案）が 20 項目整理されており、その中から短・中期の施策を抽出する説明が分かりにくい。

(委員)

- ・市で今までに実施した事業について遡って整理したほうがよい。
- ・具体的にどのような事業を実施したか、また、予算をどのように使用したかを知ることと次へのステップになる。できるだけ掘り下げてほしい。

(事務局)

- ・交通に関する事業は多岐に渡り、長期に及ぶものがあるため、整理が難しい。現在、本市では総合計画の見直しを行っており、これまで実施してきた施策の効果や成果を検証する中で示すことができればと考えている。

(会長)

- ・全ての施策について検証することは難しいが、部会で活発な議論ができるような整理はしてもらいたい。

(委員)

- ・部会については検討項目が多いため、項目を絞ることはできないのか。

(事務局)

- ・できるだけ、項目やポイントを絞り議論することになるが、資料 6 の 8 ページから 16 ページに太字で記載されているものをメインで議論していただきたいと考えている。それ以外の項目についてもできるだけご意見をいただきたい。

(委員)

- ・茨木市の場合、大規模なプロジェクトが多くあり、それらを短・中期施策として位置づけることを考えながら、部会を運営してほしい。

(委員)

- ・昨年度、国が策定した自転車利用環境創出ガイドラインに沿って全国の自治体において施策が進められているが、成功しているところは事故に関する具体的なデータ等を示しながら、関係者間で合意形成を進めている。
- ・部会でも具体的なデータを元に議論を行いたい。

(事務局)

- ・データの要望等があれば、できるだけ提示したい。

(委員)

- ・公共交通の利用料金に関する項目がないため提案したいが、障害者や高齢者の公共交通の無料化を検討できないか。

(事務局)

- ・公共交通の無料化については、交通弱者への対策と考えられる一方で、受益者負担を求めるといった考え方もある。また交通事業者の収益にも関わる。部会では、将来の公共交通のあり方として、無料化についても議論していただきたいと考えている。

(会長)

- ・公共交通の無料化だけの議論は難しい。今後、高齢社会を迎えるなかで、公共交通を維持していくためのあり方についてどうすべきかを議論する際に、無料化について検討することは考えられる。

(委員)

- ・参考資料4ページの「踏切の安全な通行を促す取り組み」については、短期的には交通事業者単独や警察・行政も含めた安全対策、長期的には立体交差などの根本的な安全対策を検討することを総合交通戦略として入れてほしい。

(委員)

- ・資料6の4ページで、短、中、長期施策の選定については既に取り組んでいる事業や実現可能性の高い施策とされており、また、8ページ以降では将来や戦略的な視点から部会でのメインとなる検討項目が提示されているが、どのような視点で選ばれ、どのような効果を期待しているのかを整理したほうが、なぜその項目に集中しているかが分かるはず。
- ・長期的な計画は10年後に見直すことになっているが、その間何もしないのではなく、継続的に検討すべき項目もあるのではないか。

(会長)

- ・最終の計画書では、まちの将来像である「住み続けたい元気なまち」に向けて、関係者が戦略を持って取り組み、市内において各施策が動いていることがわかるように説明する必要がある。

(委員)

- ・モノレールとＪＲが交差しているのに乗り換えができないといった市民の声をよく聞く。理由は様々あるのだろうが、本協議会で議論する必要があるのではないか。

(委員)

- ・交通安全部会で歩行空間のバリアフリー化や自転車利用環境の項目について議論することになると思うが、自転車が加害者となる事故も多く発生していることから、市民の生命を守る視点も加えてほしい。

(委員)

- ・議論にあたってはどの対策がどのエリア(２ページの場所を示す図)に影響を与えるか、範囲を明確にすればよいのではないか。
- ・総合交通戦略を考えるなかで、都市計画との関わり方を対外的にどのように示すのかを考えなければならない。
- ・事故対策はＰＤＣＡサイクルの観点が重要といわれている。資料６の１７ページでは５年、１０年のサイクルで評価することになっているが、社会情勢はめまぐるしく変化するため、もう少し短期的にフレキシブルな対応も必要ではないか。

(委員)

- ・全国の７７都市(策定済６１都市、策定中１６都市)で総合交通戦略の策定に取り組んでおり、３７都市が国土交通大臣の認定を受けているが、国としては交通施策のみに特化した計画が多いことを問題視している。
- ・人口減少、地球温暖化、高齢化の進行、行政コストなどが問題になるなか、コンパクトなまちづくりが求められている。総合交通戦略の策定においては交通施策だけでなく都市機能の集約など、まちづくりの観点から検討する必要がある。

(委員)

- ・資料６の９ページで「市で現在検討・実施を進めている施策」として市内鉄道駅周辺でのバリアフリー構想や路側帯のカラー舗装などが挙げられているが、どの程度実施しているのか。

(事務局)

- ・鉄道駅周辺でのバリアフリーについて、担当課では平成２６年度からバリアフリー基本

構想策定に着手したいと考えているが、具体的なスケジュールはまだ決まっていない。

- ・路側帯のカラー舗装については、一部で実施している。今年度は小学校からの要望も踏まえ、できるところから実施する予定である。

(委員)

- ・路側帯のカラー舗装については、工事施工における道路使用に係る協議が数多く実施されているため、今後カラー舗装化が実施されることを情報提供しておく。

(委員)

- ・施策を検討する視点として、南海トラフ地震への対応など防災の観点から災害時における誘導等も念頭におき、総合交通戦略を考えていく必要がある。
- ・北摂管内において大阪府が管理する道路施設等の老朽化が進んでおり、今後施設の更新などもイメージしながら総合交通戦略の議論を進めてほしい。

〔部会の設置について、以下のとおり決定〕

- ・公共交通部会及び交通安全部会を設置
- ・公共交通部会は「茨木市審議会等の会議の公開に関する指針 第3 会議の公開の基準」における「法人等に関する情報」について審議する場合に該当するため、会議は非公開、会議録は概要のみ公開、会議資料は非公開とする。
- ・交通安全部会は「茨木市審議会等の会議の公開に関する指針 第3 会議の公開の基準」における「審議、検討等に関する情報」について審議する場合に該当するため、会議は非公開、会議録は概要のみ公開、会議資料は非公開とする。
- ・公共交通部会委員は、猪井委員、林委員、上村委員、河崎委員、西村委員、北西委員、迫田委員、大浦委員の8名とする。
- ・交通安全部会委員は、猪井委員、林委員、上村委員、大浦委員、藤本（典）委員、小林委員、田中（直）委員の7名とする。
- ・公共交通部会及び交通安全部会の部会長は、猪井副会長とする。

(副会長)

- ・全体の議論と個別具体の議論が必要であり、交通とまちづくりを融合させる取り組みは難しいと考えている。そのため、できることから実施し、段階的に見直すことで結果として良い総合交通戦略になるのではないかと思います。
- ・将来の茨木市の交通施策のあり方を検討するため、皆さんにご協力いただき、部会での活発な議論を展開したい。

(会長)

- ・いくつかの都市で総合交通戦略に携わっているが、最も進んでいるのが京都市である。「歩くまち京都」という総合交通戦略の策定により、市の交通施策が明確になっている

る。

- ・ 今後、総合交通戦略の進行管理と評価指標が重要になる。従来、策定した後、評価指標を考えることが多いが、策定時にどのような指標で評価するのかを念頭においておくことが重要である。
- ・ 評価指標のデータの入手先についても検討しておく必要がある。

（６）次回の開催日程

（事務局）

- ・ 10 月に開催を予定（開催日時は別途調整のうえ決定する。）

第1回 茨木市総合交通戦略協議会 出席者名簿

(敬称略)

【委員】

塚口 博司（立命館大学理工学部都市システム工学科 教授）：会長
猪井 博登（大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 助教）：副会長
林 高（市民）
上村 智子（市民）
平野 剛（西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部京都支社 地域共生室長）
庄 健介（阪急電鉄株式会社都市交通事業本部都市交通計画部 部長）
池田 清一（大阪高速鉄道株式会社運輸部 次長）
河崎 浩一（阪急バス株式会社 取締役自動車事業部長）
（代理：瀧川 文章 自動車事業部営業計画課調査役）
西村 昌之（近鉄バス株式会社 専務取締役営業部長）
北西 進太郎（京阪バス株式会社 取締役企画部長）
迫田 謙典（一般社団法人大阪タクシー協会 副会長）
越智 啓伸（大阪府民の交通環境を良くする行動北摂地区実行委員会 茨木地区代表）
大浦 毅（茨木市身体障害者福祉協会 会長）
藤本 典昭（NPO 自転車活用推進研究会）
田中 克己（国土交通省近畿地方整備局建政部都市整備課 課長補佐）
辻脇 崇（国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所 地域調整課長）
田中 秀人（国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局総務企画部門 首席運輸企画専門官）
（代理：野村 知功 運輸企画専門官）
藤本 和往（国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局輸送部門 首席運輸企画専門官）
小林 保（大阪府茨木土木事務所 参事兼維持管理課長）
田中 直人（大阪府茨木警察署交通課長 警部）
（代理：泉谷 直紀 交通課交通規制係警部補）

【市（事務局）】

柴崎 啓二（副市長）
大塚 康央（都市整備部長）
野口 正博（建設部長）
岸田 茂樹（都市整備部次長）
鎌谷 博人（建設部次長兼道路交通課長）
田邊 武志（都市政策課長）
藤田 憲文（道路交通課参事）
砂金 隆浩（道路交通課係長）
村山 雅俊（都市交通課係長）